
CSTI 天界科学技術院

杉下右京

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

CSTI 天界科学技術院

【Nコード】

N8211M

【作者名】

杉下右京

【あらすじ】

人類は現在63億という途方もない数に膨れ上がった。

しかし、まだ8000万人の人々が静かな海底でコロニーを造り、外界より数世紀進んだ科学を操っていた。

いや、それは正しくない。

なぜなら、遠く離れた宇宙に彼らが満を辞して送り出した

7000万もの人々が壮大な方舟を駆って旅をしているのだから。

250年もの長きに亘り宇宙を旅した人々が今地球に降り立つ。

彼らの地球帰還物語がここに幕を開ける。

プロローグ『闇を切り開く者たち』

今日も宇宙は黒々としていた。全てを呑み込む狂気を秘めた静かな暗黒。

それはただのちっぴけな人間に、身の毛もよだつ恐怖を植え付けるものだった。

だが、光り輝く恒星が、海かと思紛う様な星雲が、そこにはあった。それらは何物にも変えがたいほどの美しさを持っていた。

しかし同時に、比類なき好奇心と勇氣に満ち、

壮大な暗黒を『科学』という名の光明で切り開いていく、青い星の人々を通った軌跡だった。

その、サファイアよりも美しい青い星の名を『地球』と彼らは呼んだ。

今、勇氣と誇りを胸に、科学力だけをその手に宿して進んだ者たちが旅を終えようとしていた。

帰還目標は『地球』彼らが故郷として語り継ぐ、映像でしか見た事のない命の星だ。

彼らはもうすぐそこまで来ていた。

それにいち早く気付いたのは、彼らが地球に残した友人と各国の通信設備だった。

第一話 『天界科学技術院』

遠い昔の事、古くから神話が語り継がれ、実際に信仰を集めたように。

科学を研究し、この世を知の輝きによつて照らして行くこととする
一種の宗教じみた考えで動く者達がいた。

その者達は幾度もの実験や理論構築を進め、少ない予算をやり繰りし、

当時自然科学と呼ばれていた学問を確実に成熟させていった。

いつしか科学宗教といった色合いは薄れ、

代わりに世界から広く天才を集め、己の技術と科学力を高めていく
秘密組織と化した。

その組織の存在を知る者は組織の外にはいない。

今でもその存在を絶対秘密とされているからだ。

今年、この科学組織が宇宙にまで手を伸ばして250年の時が過ぎた。

そして、遂に最先端技術を投入した深宇宙探査計画『ラジエルプラン』の実験コロニー型深宇宙航行用母艦が地球に帰還する。

同時に、数千年もの時を越えて組織の存在が世界に向けて公表される。

その時、彼らは自らをこう名乗った。

Celestial

Science

And

Technology

Institute

略してCSTI

その意味は……『天界科学技術院』

彼らが地に降り立つ時、圧倒的科学技術による神話が始まる。

第二話『覚悟と共に帰還する者』

暗く、何も無い様に見える宇宙。その闇の中を減速しながら進む1隻の箱舟があつた。

『Celestial-Science-And-Technology-Institute』

略してCSTIと一般に呼ばれる組織の保有する壮大な箱舟だつた。八面体をした艦の内部は150の階層に別れており、

中心階層、最も広い居住階層の面積は2300万平方キロメートルに達する。

遙か250年も前に宇宙で建造された深宇宙航行用母艦『セファール・ラジエル』だ。

巨大な艦体は、宇宙原産の新原素を主成分とする合金鋼・ルナライト鋼に覆われ、

艦尾から伸びる9基の推進機関の放つ純白の光を反射して漆黒の宇宙を仄かに照らす。

その中には緑豊かな草原や幻想的な箱庭、次世代的な都市、多数の惑星探査機、

そして、7000万人を超える人々が居た。

彼らは宇宙の深淵に迫る長い旅を始めた時からずっとセファール・ラジエルと共にいる。

しかし、彼らは『地球』^{テラ}と呼ばれる故郷に住んでいた頃も科学時代の先駆者だつた。

常に隠蔽された都市で科学の発展に心血を注ぎ、外界との関わりを絶つ事で技術を独占した。

だから、彼らは時に仲間割れを起こしながらも戦争などという蛮行には一切関わらず、

外界より200〜300年は進んだ科学技術を手にする事に成功し

た。
例えば

遺伝情報を書き換えて理想の子供が生まれて来る様にするコーディネート技術。

レオナルド・ダ・ヴィンチの手稿を基に造られた永久機関・Eドライブ。

セファール・ラジエルの主要システムを管理し、艦その物と言っても良い量子セントラルコンピュータ・愛称『セファール』。

これだけを見てもCSTIの科学力が非常に高い事が分かる。そして、地球で最高の技術と知識を持つ彼らの行き着いた先が宇宙という名の無限の泉だった。

そこを漂った日々は、彼らに神秘と秘密の領域を刻みつけ、飛躍的な科学の進歩を齎した。

宇宙工学、惑星探査機工学、電子工学、宇宙造船学、宇宙物理学、天文学。

これらに加えて、異法則物理学や異界相違物理学 即ち魔術学なども発展を遂げる。

もちろん、宇宙という財宝の塊の恩恵を受けたのがこれらの学問というだけで、

その他の学問も堅調な発展を見せ、それらは確実に彼らの生活を塗り替えていった。

そして、旅も一通りやり終えた彼らは8000万の人々が待つ故郷に帰還する事を決定する。

帰還と同時にCSTIの存在を外界の各国に向け大々的に明かす事も。

帰還と公表を決意した人々の胸には希望しかなかった。

何せ、伝説とおとぎ話の世界に出てくる本物の緑の大地に降り立つ事ができるのだから。

しかし、実質的に帰還と公表の決定を下したCSTI統括理事会は

危惧も抱いていた。

何も知らない各国が簡単にCSTIの存在を認めるか、心配だったのだ。

だからこそ、急造ながら軍備も整える事になったし、その為の人材育成も始まっている。

『帰還は何年も先だ。一異界相違物理学による抜け道ショートカットを使っても30年は掛かるだろう。

光速に近付けば近づくほど我々の知覚速度は遅くなる。

故に地球ではもつと長い時間が過ぎていくだろう。

だが、我々は如何なる事があるうとも必ず故郷に帰還し、科学によって齎もたらされる繁栄を地球の人々と共に享受しようではないか。』

帰還と公表がCSTI統括理事会で決議された時、統括理事長が行った演説の一説だ。

帰還は外界の人々にも技術を分け与える為に必要な行為。

しかし、外界が示す反応によっては戦争さえも起こり得る。

リスクは大きい。

だが、地球残留民から届いた情報によると、

外界は産業革命を終えて戦争と略奪の時代に入ったらしい。

戦争に間に合うとは思えない。が、産業革命によって何が引き起こされるかは経験済みだ。

だから、CSTIなら止められる。荒んでいく世界を。

温暖化も環境破壊も、戦争も。

そんなものを全てを解決して外界の人々と歩みを揃える事ができる

CSTIの圧倒的技術力で何十億という人を救う事ができる。

これが、セファール・ラジエルが『地球テラ』に舞い戻る理由。

ハイリスクなのは先刻承知。だが、これは一種の贖罪だった。

数世紀先の技術を持っている事を頑なに隠し、自分達だけの物とし

た罪。

それを少しでも贖^{あがな}う為の、せめてもの行いだつた。
傲慢、自分勝手、何を今更。

それがCSTIの先人達が犯した罪の重さだ。

だからこそ、我々は甘んじてその罪を受け入れる。

それだけの覚悟を統括理事会の面々は持ち合わせていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8211m/>

CSTI 天界科学技術院

2011年10月6日19時26分発行